

令和6年度学校評価報告書

令和7年(2025年)3月1日

北海道教育委員会教育長 様

北海道札幌東陵高等学校長 菅 原 和 幸 印

次のとおり令和6年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- ①生徒の主体性が発揮される学習体制の確立
- ②調和の取れたバランス感覚の獲得を目指した生徒指導の推進
- ③ワクワクするモチベーションを育てるキャリア教育の推進
- ④健康で安全な高校生活を営むための健康・安全指導の推進
- ⑤ICT 機器を活用した教育実践の構築と、学校における働き方改革の推進

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学校経営	・学校評価に関しては、保護者から「評価するための情報が足りない」とのご指摘を受けた。 ・学校説明会等の広報活動は計画通り実施できた。	・SNS等で学校についての間違った噂が拡大する傾向があるので、注意すべきである。 ・花火大会の案内など、学校の行事の広報について今後も続けてほしい。 ・先生方も忙しいとは思いますが、自ら学んで生徒をよりよく育ててほしい。
改善方策	・本校の教育活動への理解を高めるためには、地域への情報発信が不可欠であり、HPのより一層の活用や新しいメディアの活用を進める。	
学習指導	・ICT活用に関しては、各教員で活用に差がある状況である。 ・授業の工夫は各教員がそれぞれ行っているが、生徒の評価を見ると、さらに改善が必要である。 ・総合的な探究の時間は、外部人材の活用や発表会の実施など、大きな成果を残した。	・先生方はしっかり授業をしてくれていると思う、自己評価が厳しすぎるのではないか。 ・よりわかりやすい授業を実施してほしい。 ・探究活動は非常に面白く、生徒たちの発表からパワーをもらえる。
改善方策	・ICT活用の校内での好事例を共有できるような研修を行う。 ・教務部を中心に、より「わかる授業」・「納得感のある評価」を実現できるような研修体制を構築する。 ・より外部人材や資源を活用し、生徒が「東区」を多面的に考え自らの将来のヒントを見つけられるような授業展開を行う。	
生活指導	・昨年に比べると指導事故件数も減少、安定した学校生活を送れている。 ・健康アンケートや面談週間などで、生徒の悩みを早期に吸い上げた。 ・マナーやルールを守る指導を重視したが、さらに改善が必要である。 ・生徒の意見を取り入れた規定の改正が行われた。	・バス停や自転車の乗り方などマナー面で大きな問題はないが、挨拶に関しては、まだまだ面もある。しっかり指導をしてほしい。 ・人間として大切なことをしっかり指導し、人を思う心を育ててほしい。
改善方策	・より生徒との対話を重ね、生徒理解を高め、未然防止的な生徒指導を心がける必要がある。 ・マナーやルールを守る指導を粘り強く展開する。 ・自転車などの交通安全指導により注力する。	
進路指導	・3年間を見通した進路学習体制の確立を目指したが、生徒への浸透が足りない面があった。 ・講習、模擬試験は概ね実施できたがより効率化が必要。”	・大学進学も大事ではあるが、将来に向けた人間性の涵養にも気を配ってほしい。
改善方策	・進路シラバスを職員全体で再確認し、必要な時期に必要な指導を行える体制を築く。 ・模試・講習の内容の精選と目的の明確化を図る。	
公表方法	学校評議員会・PTA総会での説明、ホームページ等で公表する。	

3 添付資料

- (1) 学校関係者評価
- (2) 教職員自己評価、保護者・生徒アンケート
- ※評価は4段階評価となっている。